

美術科 単元構想シート

作成者：水野 直喜

1 学 年 第3学年

2 題材名 自画像、今を生きるあなたへ ～点描の自画像 鑑賞から表現～

3 題材の目標

- (1) 点描法の点の粗密による陰影の表し方に関心を持ち、自画像の陰影表現に活用している。
- (2) 自画像作品から、作品解説文と20年後の自分をイメージして、未来の私に向けての手紙を書くことができる。
- (3) 自己を深く見つめ、夢や目標、想像や感情など心の世界を基にした点描表現の工夫から主題を生み出している。
- (4) 自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆の特性を生かし、表現意図に合う陰影の表し方を工夫して、創造的に描いている。
- (5) 点描作品のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、自分の見方を深め、根拠を持って説明している。

4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	本題材で学習した造形要素の意味や使い方を解説文を書いて説明させる。
思ー①	表現の工夫を技法や用具、材料の性質の表現効果を比べて説明し合う。
思ー②	ウェビングマップ等を活用し複数のアイデアを出させる。
思ー③	話し合う内容の視点を決めて、説明させる。
主ー①	「つくりたい」「身近な」「なぜ？」と自ら必然性を考える強い課題設定を行う。
自ー①	自分が制作した作品や学んだことに対して、自分の思いや意図を話し合わせる。
自ー②	努力した所や工夫した表現をした時に、積極的に評価する。 丁寧に作品を完成させる。

5 題材の計画（全12時間）

学習過程	時	☐ 本時のめあて ☒ 学習内容	評 価				関 発 創 鑑 評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定 情報・分析集	1	☐ 様々な自画像を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫について話し合い、自画像制作に向けて今の自分の心情を言葉で書き出すことができる。 ☒ 教科書や教師が準備した自画像作品を鑑賞し、作品に込められている作者の心情が多様な方法で表現されていることを知る。 ☒ 自分の心情を言葉で書き出す。				◎	表情、動作、色づかい、筆づかい、描画材料などが多様な作品から、作者の心情を感じ取っている。自分を見つめるためのウェビングマップを使って、心に浮かぶ言葉を書いていろいろな見方・考え方を持とうとしている。 (ワークシート)【思ー②】	
	2	☐ 自分の顔の骨格を意識して、鏡を見て観察し、どういった位置で顔が写るのか、どういったポーズがよいのか検討できる。 ☒ 胸像になる鏡の位置やポーズについて考える。 ☒ 光の方向に注意させ、骨格を意識させて、立体感を感じ取る。 ☒ 教師に胸像になるようにデジタルカメラで撮影してもらう。				○	自画像制作の材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現できるように根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (ワークシート)【思ー①】	
	3	☐ 作家作品の鑑賞活動から作者の表現の工夫と表現意図を根拠をもとに説明することができる。 ☒ ジョルジュ・ピエール・スーラの『グランドジャッド島の日曜日の午後』を視点を決めて鑑賞し、自分の考えや感じたことや作者の意図や表現の工夫を見つけ、根拠を示しながら、説明し合う。 ☒ スーラは光の作用による色彩現象を並置混色による点の筆触分割で表現していることを知識として学び、陰影で表す自画像制作にも活用できることを理解する。				◎	点描作品から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し、根拠を持って説明し合う中で、見方を深めて、自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝えようとしている。 (ワークシート)【思ー③】	
	4	☐ デジタルカメラの写真を使用して観察し、固定された陰影の形や自分の顔の外形を補助線やトレーシングペーパーを使って写し取ることができる。 ☒ 正中線を引かせ、人体の動きに意識する。 ☒ 顔の外形を描き、三段階の明度分割をする。				○	自画像制作の材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現できるようにしている (行動観察)(作品)【主ー①】	

整理・分析	5	○骨格を意識し、大まかな立体感をつかみ、光の方向による明暗を観察し、目や鼻、口などの細部の面のつながりを意識して、明度分割して描くことができる。 ●顔全体の中で目や鼻、口の位置が適切であるか、鉛筆やペンを使って測っていく。 ●鉛筆で同じ明るさの部分にくくるように描き、6段階の明るさまで明度分割を行う。同じ明るさの所に番号をふるなどの明度の違いが分かる工夫をする。			○	自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、自分の表現意図に合う 新たな表現方法を工夫するなど自ら課題を見出し、解決しようとしている。 (行動観察) (作品) 【主-①】
	6	○マーキングペンや色鉛筆を使って、陰影を点の粗密で表現することができる。 ●点描法の陰影の表し方を作品から知る。 ●マーキングペンや色鉛筆などの描画材を使って点描法の練習を行い、表現効果について知る。 ●6段階に明度分割した自画像を、どんな描画材を使って、どのように点描するのかを考え、自画像制作の構想を練る。			○	点の粗密による陰影の表し方の単純化や省略、強調、構成の仕方、描画材料の組み合わせなどを工夫して心豊かな表現の構想を練ろうと 学習したことを自ら活用しようとしている。 (ワークシート) 【知-①】
まとめ・創造・表現	7 8 9	○点の粗密による陰影の表し方を工夫して、立体感のある自画像を描くことができる。 ●目の表現は、頭蓋骨のへこみに球体である眼球が入っている構造をとらえる。まぶたから指先で触ってみて、立体感を意識させ、白目にまぶたの影が落ちていたり、黒目に反射で光っている部分があるなど。 ●顔の鼻とあご、頬などの骨の硬い部分と口の筋肉など柔らかい部分を描き分けるようにする。 ●常に部分と全体を見ながら、進めていき必要な部分を強調したり、省略しながら描き進めていき、自分らしさが出ている表現を追究していく。 ●骨格標本や人体解剖図を利用する。			◎	自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆などの描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表して、 根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (行動観察) (作品) 【思-①】
	10	○自分らしさを表現する背景の工夫をすることができる。 ●事前にワークシートのウェビングマップで自己分析した自分の内面を、色彩や形で表現し、架空の空間を設定していく。 ●書き出した言葉を基に、アイデアスケッチをしながら主題を明確にし、画面を構成する。 ●背景と自画像との関係で描いていることを注意しながら表現する。			◎	自己を深く見つめ、夢や想像や感情などの心の世界などを基に点描表現の工夫から、 主題を生成して、自ら課題を見だし、解決しようとしている。 (ワークシート) (作品) 【主-①】
実行	11	【パフォーマンス課題】 ○パフォーマンス課題に取り組むことができる。 ●自分の自画像作品を見て、解説文を書くことができる。 ●自分の自画像作品を見て、20年後の自分に向けて手紙を書くことができる。			◎	自分の自画像の造形的なよさや美しさや表現の工夫などに興味をもち、感性や想像力を働かせて、 自分の価値意識を大切にしながら作品の良さや美しさなどを批評して解説文を書くことができる。 (ワークシート) 【知-①、思-①、③】 未来の私に向けて手紙を書き、自己の内面を主体的に感じ取ろうとするなど前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。 (手紙) (作品) 【自-①、②】
振り返り	12	○学びの過程を振り返ることができる。 ●題材の学習の振り返り ●作品鑑賞			◎	本題材を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返ることができる。 (ワークシート・振り返りシート) 【知-①】

6 題材開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

○題材開発のポイント

本題材では、鑑賞と表現の一体化を行う。鑑賞を通して習得した表現の工夫を活用して、自画像作品を描く。スーラの絵画鑑賞において、自分が感じたことや考えたことを、根拠をもって伝え合う。スーラの点描画法を活用して自画像作品を制作し、話型を活用して作品の工夫点を作品解説文にまとめる。自分の自画像作品を見て、20年後の自分への手紙を書くことで美術科の中で、キャリア教育を進める。

○学習を終えた生徒の姿

造形的な良さや美しさ、作者の心情や意図や表現の工夫を感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、造形的な「見方・考え方」を広げることができる。形や色彩などの表し方を身に付け、材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する創造的思考力を高めることができる生徒。自己評価で未来の自分への手紙を書くことで、肯定的自己理解と自己有用感の獲得することができる生徒。